

近年の医学研究の進歩により、がんはさまざまな遺伝子の異常が積み重なることで発症することがわかってきました。一度に複数の遺伝子変化を調べられる「がん遺伝子パネル検査」により、がんの原因遺伝子を特定することが可能となってきました。



徳島大学病院がん診療連携センター
藤野 泰輝 特任助教

ています。こうして得られた原因遺伝子の結果を基に、分子標的薬などを用いた個別化医療を行うことを「がんゲノム医療」といい、今後のがん医療の中心の一つになるとされています。

先進医療のがん遺伝子パネル検査は、厚生労働省の基準を満たすがんゲノム医療中核拠点病院と連携病院です。既に実施されており、今夏までに保険診療で開始される見込みです。徳島大学病院はがんゲノム医療連携病院に指定されており、保険診療のがん遺伝子パネル検査を開始する予定です。

また、保険診療が開始される前や保険適応とならない患者さんのために、徳島大学病院では、自由診療のパネル検査も昨年5月から実施しています。がんが最初に発生した臓器がはっきりしない「原発不明がん」や希少がん、標準治療に不応となったがん患者さんを対象として、多くの方が受けています。

パネル検査で原因遺伝子特定

このパネル検査は現在、毎週月曜日午後にかん遺伝子診断外来で行っておりますが、その他の曜日も対応可能です。ただ、患者さんからの直接の外来予約は受け付けておらず、先生方からの紹介予約制です。自由診療のパネル検査を希望される場合は、受診日に他の検査や診察がないようお願いいたします。また、検査自体が高額であり、原因遺伝子が見つからない場合や、見つかったても有効な治療が受けられない場合もありますので注意が必要です。

検査の流れや費用については、徳島大学病院がん診療連携センターのウェブサイトで「がん遺伝子診断外来について」をご覧ください。ただか、電話相談（088・6333・9438）で対応いたします。